

インターネット・SNS を介した個人投資家の期待形成過程

徳永俊史ゼミ

武蔵大学経済学部経営学科 4 年

伊良波 智一(学籍番号:1222190)

2026 年 1 月 8 日

2026 年 3 月 31 日修正

本論文は、インターネット・SNS を介した個人投資家の期待形成過程を行動ファイナンス理論により分析する。近年の NISA 過渡期を背景とする我が国の投資構造の大きな節目において、投資参加の増加率が顕著な 20～30 代を含む個人投資家層は、投資情報の収集にインターネット・SNS を活用している。したがって、情報環境の変容が彼らの期待形成過程に与える影響は看過し難い。

先行研究は、インターネット・SNS 上で観測された銘柄検索行動が個人投資家の注意を客観的に評価し、市場と相互作用する「期待」の源泉を掴むことを示唆している一方、相互作用の方向性や影響を与える期間は十分に整理されていない。この課題に対し本論文では、分析枠組みに銘柄検索行動（Google トレンド）と市場変動、並びに投資行動を設定し、実証分析を行った。その結果、検索プラットフォームの特質に応じ、期待形成過程に係る銘柄検索行動の異なる役割や、能動的な期待形成と受動的な期待形成の併存が明らかになった。

キーワード：個人投資家, 行動ファイナンス理論, 銘柄検索行動, 注意と期待, 個人の意思決定プロセス